

出演する振付家・ダンサーへの質問（木村覚より）

回答者：神村恵

(1) 自分の方法論を言葉にしてもらえませんか。

ある基準を見つけて、自分にとって必要な動きだけをする。

動きを起点に、部分から全体を組み立てる。

脈絡のないように、意味がなるべく生じないような組み合わせを見つける。

（動きと動きの連なり、人の並べ方、など）

舞台と客席を地続きにする。何かを表現するのではなく、目の前で実際に起きていることを見せる。

ソロについて

観客や自分自身の期待や予想を裏切る、展開やタイミングを見つける。

自分にとってスリリングな動きをする。

ある基準を追って、できるだけ正確に動く。同時に、その目指す基準と、実際の動きとの差異を確認する。

カンパニー作品について

集団でいても、個人でいること

例え集団で同じことをやっても、それぞれが自分の中の興味、動機に基づいて動くものを並べるように、人を配置する

(2) 作品を作る際にもっとも心がけていることは何ですか。

ダンサーが、ごく個人的な確信を持って舞台に立てるようにすること。（ソロでもカンパニーでも）

(3) 意識している同時代の作家はいますか（ダンス／その他のジャンル）、その理由を教えてください。

手塚夏子さん → 演出家としての目線が徹底している

鈴木ユキオさん → 作り手として自分に残酷なところ

(4) 意識している過去の作家はいますか（ダンス／その他のジャンル）、その理由を教えてください。

トリシャ・ブラウン → 自分にとって必要なことだけを作品にしている

ジョージ・バランシン → バレエを突き詰めていったら、違うものになっていった

トルストイ → オブセッション的に、残酷な心理描写を重ねるところ

(5) いまのコンテンポラリー・ダンスをめぐる環境についてどう考えていますか。問題点、課題は何ですか。

続けるための受け皿がない。職業として成り立たない。

テクニクや作品の方法論があまり共有されてない。

(6) ダンスの批評の現状についてどう考えていますか。問題点、課題は何ですか。

誰に向けてのものなのかわからない。

(7) 今後の作品作りで、心がけようと考えていることはありますか。あれば、それはどんなことですか。

カンパニー作品において、集団の中に生まれる暗黙の了解、ルールをどうやって認識して、どうやってそこから逸脱するか。